文化

（このページは原則として敬称を略します）

横浜の海運と和船

—2—

みちのくとの結びつき

東廻り航路の湊と神奈川湊

東北地方から太平洋岸を航海し江戸に向かう海上ルートを東廻り航路と呼ぶ。北前船が走った西廻り航路にくらべて一般に知られていないが、関東にとっては重要な物流ルートである。この航路の寄港地に残る資料を調査した結果、東廻り航路の湊と神奈川湊（江戸時代横浜市域の中心的な港）の新たな結びつきが見えてきた。

八戸（青森県八戸市）は盛岡藩の支藩・南部家の城下町として栄えた東廻り航路の湊のひとつである。八戸を代表する商家・石橋家の資料のなかに、神奈川湊の商人との取引を示す古文書が残されていた。

1839（天保10）年4月12日、神奈川湊の廻船問屋・津屋太兵衛らは、八戸の石橋兵右衛門と渡辺安兵衛にあてて大麦1530俵、蕎麦143俵など18 42俵の穀物を積み出した。この荷を積んだ住吉丸は同月26日無事八戸に入港する（八戸市博物館所蔵史料）。弁才船（輸送船）1艘の積載スペースを必要とする小さからぬ取引が、神奈川湊と東北地方の商人とのあいだで成立していたのである。

□

茨城県北茨城市に平潟という小さな漁港がある。江戸時代には東廻り航路の寄港地として栄えたこの港にも神奈川湊とのつながりを示す古文書が残る。

平潟の鎮守・八幡社は1835（天保6）年に火災に遭った。平潟では社の再建のため湊に出入りする全国の船に寄付をつのる。江戸・大坂の商人をはじめ、全国の船乗りが募金に応じたが、その〝募金芳名帳〟（個人蔵）のなかに神奈川の船と船乗りの名が記されていた。1853（嘉永6）年9月25日、「金川（神奈川）」の竜善丸定八が金100疋（約2万5千円）を、翌年3月4日には「武州金川」の竜徳丸熊太郎が同じく金100疋を寄付している。神奈川湊に船籍をもつ船と船乗りたちの活動はよくわかっておらず、彼らの名前が東廻り航路の湊から見いだされたことは小さくない発見である。

東廻り航路の湊と神奈川湊の交流の様相はこれまでほとんど明らかになっていなかった。横浜市歴史博物館会場では、江戸時代の神奈川湊がみちのくの津々浦々とも、たしかなつながりをもっていたことを紹介する。

（横浜市歴史博物館学芸員・吉﨑　雅規）

＝次回は27日掲載

東廻り航路の絵図（八戸・青森付近）「自江戸従松前海上図巻」（江戸時代、横浜市歴史博物館蔵）

横浜市歴史博物館・神奈川大学日本常民文化研究所主催展覧会「和船と海運」

■横浜市歴史博物館会場「津々浦々百千舟—江戸時代横浜の海運」3月20日まで（3月20日を除く月曜休み）。

■神奈川大学日本常民文化研究所会場「順風満帆　千石船—和船の構造と技術」3月17日まで（土日祝日休み）。